



エフピック 広島ファミリー相談室

活動報告

第 22 号

発行日
2025年 6月 1日

民間支援機関「広島ファミリー相談室」の未来

社会情勢、家族の変化に伴い、家庭・家族への支援の在り方も変わってきます。民間支援機関の一つとして、社会や家族の要請にどのように応えていくか、そのためにどのような組織作りが必要か、取り組むべき課題は何か、FPIC 本部事務局長から見た FPIC 広島ファミリー相談室の未来について語っていただきました。

5年後の FPIC の未来～広島相談室のバトンを渡すために～

公益社団法人家庭問題情報センター (FPIC)
事務局長 山崎 朋亮

1 FPIC の歩み

FPIC は先輩たちが社会貢献活動に参加する情熱を燃やして結成し、実績を積み、社会的信頼を得て、社会に必要な事業を展開する真摯な組織として認知されてきました。その情熱と実績は途切れることなく、32年間受け継がれてきました。私たちは、FPIC が社会に必要なとされている組織であることに自信を持って、次の世代にバトンを渡さなければなりません。

2 社会の変化

世の中は急激に変化しています。情報は SNS 等によって、どんどん手元に集まってきましたが、その情報の真偽は不明で、偏った情報であることも多く、評価や批判も一方的です。また、家族の多様化も目まぐるしく、これまでの親子関係という概念とは必ずしも一致しません。FPIC への期待も多様化しており、限られた支援態勢の中で、支援対象をどのように広げられるのかが問題です。

3 FPIC の課題

FPIC が抱えている主な課題は、会員の高齢化と人材不足、また、財政基盤の脆弱さです。これは広島相談室の抱える課題とも重なるでしょう。

しかし、広島相談室の強みは、中心となる弁護士会員の存在と弁護士会の理解の広がりです。また、自治体との関係が親密で、複数の自治体から事業委託を受けています。そして、最も誇れるのが会員の団結力です。これらを基にして、(1)会員拡大への一層の取組み、(2)現在の事業の拡大、(3)新たな事業展開の可能性の検討、などが取組課題として考えられると思います。

4 広島相談室のバトンを渡すために

人材を獲得する際に報酬は切り離せません。特に、面会交流支援事業は困難で、専門性や調整力に基づく経験が求められる事業です。このような事業に携わる会員にはそれなりの手当は当然必要で、事業に参加する意欲を維持することにもつながります。会員を勧誘する場合にも、報酬の説明は必要でしょう。また、情報収集力とオンライン時代に備えるためのインフラ整備も欠かせません。

これらを支える財政基盤は、寄付や会費に頼るだけでは心配です。私たちの事業は専門性を有しており、社会的な信頼を得ていることに自信をもち、次の世代にバトンタッチをするために、必要な支援費、手続費用などの検討は急務です。

広島相談室の会員の皆さまが一丸となって会員を獲得し、事業を拡大してゆく姿は、他の相談室を大いに勇気付けるに違いありません。広島相談室の一層の発展を応援しています。

令和7年度 第12回通常総会開催

通常総会は、令和7年4月23日(水)、広島県民文化センターにおいて開催されました。会員36名中、21名出席、委任状15通により会は成立し、大本和則代表、倉田治顧問、小鹿野智事務長の体制の下、大本代表を議長に選出して協議した結果、令和6年度事業報告、決算報告及び会計監査報告が承認され、令和7年度の事業計画及び予算(案)は可決されました。

総会に先立ち、家庭問題情報センター事務局長の山崎朋亮氏の「5年後のFPICの未来～広島相談室としてバトンを渡すために～」と題して記念講演が行われ(表面参照)、当相談室のこれからを考える有意義な機会となりました。

令和6年度の主な活動 (令和6年4月～令和7年3月)

活動内容	件数・人数など	参考(前年度結果)
面会交流支援	324回	305回
相談	電話381件、面接96件	電話386件、面接108件
公正証書遺言の証人派遣	246件(会員445人)	154件(会員281人)
親支援プログラム(かるがもクラス)	7回(参加者23人)	9回(参加者30人)
家庭問題無料相談会	38件(申込者37人)	29件(申込者34人)
赤い羽根共同募金活動	募金116件	募金111件
岡山市養育費・面会交流相談	11回(相談件数22件)	12回(相談件数34件)
広島県・広島市共催「離婚前後親支援講座」	5回(参加者33人)	5回(参加者42人)

窓

『また会える?!～』

面会交流で支援者は、いろいろな親と子の姿に遭遇します。

元々、父と仲の良かったA君(男子9歳)のケースを紹介します。

支援第1回目、久しぶりに再会した面会場所で遠くからお互いに気づくと双方が駆け寄り強く抱き合いました。別れる際にもしばらく泣きそうになって抱き合った後、支援者の一人が子を連れて監護親に戻す場面で、姿が見えなくなった後に子が全速力で走って戻り再度面会親と抱き合いました。

しかし、2回目以降はそのようなことは無くなりました。継続してまた確実に会えることを子が認識したのででしょうか。以来、面会交流は安定して続いています。

(事例は活動報告用に加工修正しています。)



赤い羽根共同募金のご協力ありがとうございました

温かいご支援のおかげで、広島ファミリー相談室は安定した運営を続けることができます。社会への還元の一環として令和7年度も無料相談会を開催いたします。

家庭問題 日時: 令和7年10月5日(日) 午前10時～午後4時

無料相談会 場所: 広島県民文化センター 広島市中区大手町1丁目5番3号



公益社団法人 家庭問題情報センター (FPIC) 広島ファミリー相談室

〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5番3号

広島県民文化センター6階

電話・Fax: 082-246-7520 (平日13:30～16:30)

E-mail: fpichiroshima@ybb.ne.jp

HP: <https://www.fpichiroshima.com/>

